

生産用機械器具

S&H かぶしきかいしゃ せいわ
株式会社 誠和

329-0412

栃木県下野市柴262-10

<https://www.seiwa-ltd.jp/>

JR小金井駅東口から徒歩28分、車6分

お問い合わせ先

TEL: 0285-44-1114 FAX: 0285-44-1755

<https://www.seiwa-ltd.jp/contact/>

ここがセールスポイント ハウス栽培の研究・開発に特化した農業資材メーカーです。

当社は、創業以来、農業用ハウス向けの設備メーカーとして、施設園芸の発展のため邁進してまいりました。ハード・ソフトの企画・設計から、生産物の流通・販売まで一貫して支えるプラントメーカーを目指しています。

会社概要

代表者名 竹内 康博

資本金 9,980万円

年商 51億6113万円(2025年3月期)

従業員数 163名(パート含む)

設立 1971年4月20日

取得規格

主な拠点・主要取引先

拠点: 本社(下野市)、国内営業所7ヶ所
取引先: 三井物産株、シーアイマックス株、日本ロックウール株、タキイ種苗株、カネコ種苗株、株式会社タネ

事業内容

- (1) 施設園芸用の環境制御機器、養液栽培システム、省エネ・省力機器の製造販売
- (2) 大規模プラントの開発、製造、販売
- (3) 流通事業構築

施設園芸における生産性・エネルギー・炭素排出量を総合的に計算して、農業用ハウス建設・省エネ資材導入・脱炭素の取り組みをサポート。



- ①農業用ハウスにおいて必要なエネルギー量の計算・可視化
- ②農業用ハウスにおいて省エネ資材を活用することで削減できる化石燃料やCO₂排出量の可視化
- ③農工連携型資源循環がもたらす環境および経済価値の予測
・清掃工場由来の余熱とCO₂を利活用するという資源循環がもたらす効果の可視化
・廃棄エネルギーを利用した際の経済的かつ環境的価値を算出

社長からのメッセージ

当社は、農業用ハウスの「自動カーテン装置」、「換気装置」において、全国でトップクラスのシェア率を誇ります。また、ロックウール等の「栽培装置」、ハウス内の環境測定器「プロファインダー」でハウス内の見える化を推進、現在のスマート農業の礎を築いてきました。

今後も、これまで培ってきた技術と経験を活かし、革新的な製品やサービスをお客様に提供し続けられるよう、施設園芸業界の市場を創造していきます。

その他にもこんなものを造っています！

AIを活用したスマート農業新サービス

当社では、施設園芸の農業資材メーカーとして、環境技術・栽培技術・製品開発・施設設計を集積したノウハウを駆使して、生産者のみなさまに作物の高い収量・品質を実現できるハウス内環境を提案しています。

2025年8月には、イチゴの収量予測と栽培アドバイスを提供する「プロフィットナビイチゴ」をリリースいたしました。

イチゴ栽培で収集した「環境データ」、「生育データ」の分析をもとにシミュレーションモデルが構築されています。過去のデータとAIの学習を活用することで収穫シミュレーションが可能となります。栃木県の「AIいちご生産イノベーション事業」を利用して作成しました。作成時のデータは、「どちらか」を使用しています。

イチゴの生産量が多い栃木県で、イチゴで新規就農する方にとって心強いサポート機能です。

今後も、農業の生産者さまをサポートするため、研究開発に取り組み農業の発展に貢献していきます。

プロフィットナビイチゴ

メニュー ログアウト

栽培アドバイスを見る

収量予測を見る

収量予測結果を検索する

収量予測の条件を追加する

収量を登録する

プロフィットナビイチゴとは
イチゴがストレスのない環境で順調に生育した場合の
理論上の1作の最大収量を予測できるコンテンツです

収量予測結果の第一アドバイス!

収量予測結果の第一アドバイス!

【収量に合わせた栽培管理(冬季～春)】

年始が近づき、気温はまだ低いですが、日射量が増加する季節になります。気温だけでは問題ない、この季節は経済不適になります。冬後は日射量が増加し、自然と光合成量が増加し、果実品質や収量もよくなります。ですがこの時期の管理は、日にちに合わせた栽培管理が不可欠です。この時期に冬の栽培管理のまま栽培を続けてしまうと、せっかく日射量が増えて光合成量が増える時期に、水不足となって、収量が減少する可能性があります。冬後は日射量が増加するため、栽培管理を変えて、収量を最大化する必要があります。また、1回の施肥量は少量化し、これに合わせるよう調整してみてください。

栽培量を増やすことで、チップバーンというときに起きやすい施肥トラブルの発生も抑制できます。作物の生育には水が不可欠です。生育に十分な給水を行って、光合成を最大化させてみましょう。